

修道

事務局
だより

写真・資料提供のお願い

修道学園(中・高)同窓会では、過去の写真・資料などを収集しております。写真・資料をお持ちの方は、是非ご提供くださいますようお願いいたします。提供いただきました資料は、会報誌や三百年学園史の資料として使わせていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

住所変更手続きのお願い

会員の方で住所・電話番号・勤務先・メールアドレス等変更になった方は、変更手続きをお願いします。

変更手続きは、修道学園(中・高)同窓会ホームページの住所変更登録フォーム、または同窓会名簿内の添付ハガキでご連絡ください。電話・FAXでも結構です。ご協力をお願いいたします。

会員名簿第37号の発行について

現在、名簿委員会(委員長 貫名 賢)において、「会員名簿第37号」を発行する準備を進めております。発行は2020年3月の予定です。前36号は、2015年3月に発行しました。

今回も名簿発行業務は、(株)サルトに委託します。2019年6月頃には調査ハガキを会員全員に発送する予定です。

より良い名簿作りに向けて努力いたしますので、皆様のご協力をお願いいたします。

ご注意

本同窓会の名をかたって名簿を販売するケースが頻繁に起こっています。不審なハガキや電話等にはお答えにならないようお願いします。同窓会が名簿を発行する場合は、必ず同窓会長名で調査を行います。

information

- 乙挨拶
会報誌の発行にあたって 深山英樹(高12回) 1
- 支部活動報告
関東支部 大羅健司(高38回) 1
近畿支部 谷村典俊(高30回) 3
九修会 石本俊亮(高27回) 3
東部修道会 山本正憲(高14回) 4
江能修友会 胡子雅信(高41回) 5
修道医会 大段秀樹(高33回) 5
広島修道歯科医会 毛利雅哉(高31回) 6
広島市修道会 木村隆之(高59回) 6
- 特集
2017年度広島カープ優勝バレード 深山会長と緒方監督
増本光雄(高12回) ... 7
- 人物往来
2017年度退任横洲秀輝元教諭(高27回) 8

- 同期会報告
修道高校四期会中締め大会 総会・懇親会実施報告
河野富士雄(高4回) 9
卒業60周年記念同期会修道十日会 池本 章(高10回) 9
的場先生を偲ぶ会を開催して 久保田喜之(高11回) 10
平成30年度『修道12回同期会』のご報告
同期会実行委員会 ... 10
昭和31年卒『修道中学6組会』同窓会 増本光雄(高12回) ... 11
卒業50年を記念して 伊藤學人(高20回) 12
第31回 修寿会総会・懇親会報告 田中佳樹 13
- 母校ニュース
修国戦 14
- 事務局だより
写真・資料提供のお願い 15
住所変更手続きのお願い 15
会員名簿第37号の発行について 15

修道学園(中・高)同窓会事務局

〒730-0055 広島市中区南千田西町8番1号 TEL (082) 241-6686 FAX (082) 249-0870 E-mail: dosokai@shudo-h.ed.jp

支部活動報告

一つ目のエンターテインメントは、卒業生による歌とギターのショーです。芸名風呂哲州として地元広島を中心に音楽活動をされている風呂哲さん(38回)と、金沢を拠点にアコースティックギター講師をされている富原悟史さん(38回)が、カープ応援ソングと共に、修道の歴史にちなんだオリジナルソング「修道学園伝説」を今回作成、初披露しました。広島弁をベースにした歌は会場の心を掴み最後にはアンコールもありと、大変盛り上がりしました。

二つ目は、利き酒コンテストです。ステージに6名上がつていただき、大吟醸酒、吟醸酒、純米酒の3種類から大吟醸を利き酒で選んでいただきました。ステージに上がった同窓生を写真に収める姿を多く見かけました。やはり、お酒好きの方がたくさんおられるように予定の3回開催後も参加されたい方が



田原校長 乾杯の挨拶



矢野寿一(38回)父上、大創産業会長 矢野博文様 講演



「修道学園伝説」を披露した風呂哲さん(38回)と富原悟史さん(38回)



利き酒コンテスト 中国醸造様 提供 お酒と「カープ梅酒」



株式会社カルビー様 提供「ふるシャカ」



Calbee

た。お互い知らない者同士でも会話のきっかけになるようプロフィールを記入したワッペンを胸に貼っていただきました。エンターテインメント関連では、中国醸造様(白井龍二郎さん(18回))のご協力により利き酒コンテストへのお酒、バーコーナーへのジン「桜尾」(新発売)そして、景品の「カープ梅酒」を提供いただきました。さらに、カルビー株式会社 Calbee Future Labo を運営する山邊昌太郎さん(40回)より、カープコラボ地域応援スナック「ふるシャカ」を参加者全員分提供いただき大変好評でした。

今年の総会は2つのエンターテインメントを用意しました。

おられる程で、歌とギターのショーに続きこちらも多いに盛り上がりました。同窓生の繋がりを深めるツールとして今後継続的に開催しても良いのではと感じました。

次回担当の9の回の皆さまに次回実行委員の引き継ぎを行った後、最後に恒例の校歌斉唱です。今年は、歌とギターのショーで歌を披露した、風呂哲さんに校歌斉唱をサポートいただき、肩を組み合い全員で歌いました。毎年このではありますが、修道学園の結束力をここで再確認することができると毎回感じます。

冒頭でお伝えしたようにテーマは「世代を超えて繋がる、そして世界が広がる」でありました。総会の中で随所で年代が離れた同窓生が会話している姿を見ることができ大変嬉しく思いました。今回経験の少ない38回が実行委員の中心になったこともあって最終的に受付手伝い要員が不足する事態が発生してしまいました。今回、事務局のサポートをいただき「現役大学生に手伝いを募る(参加費免除される)」という施策を試みた結果、直前にも関わらず4名の学生がこのプログラムに参加してくれました。当初は苦しい紛れの対応とも思いましたが、若

手の出席のきっかけになると考えればこれらの試みを継続することで、今後の若年層の出席増加につながるのではと感じています。

最後に、総会開催中は大きな問題もなくこのように盛大な同窓会が実現できたのは、人数が少ないながらも8の回実行委員の綿密かつ効率的な企画・実行・決断力、そして関東支部の事務局、同窓生の皆さま並びに修道学園関係者のご支援の賜物です。本当にありがとうございます。この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

支部活動報告

関東支部総会報告

大羅 健司(高38回)

東京ドームホテル「天空の間」にて修道学園同窓会関東支部のつどいが開催されました。今年の総会のテーマは、「世代を超えて繋がる、そして世界が広がる」を掲げ「8」の期が総会をプロデュースしました。同じ修道学園という学び舎で多感な青春時代を過ごしながらも、世代の違いにより出会うことができなかった先輩後輩が、何気ない会話をきっかけ

に繋がり、知見を広げる場となることを目指し企画を進めました。大変残念なことに、開催の2日前に西日本集中豪雨が発生し、広島に甚大な被害を与えました。部来賓の方も急遽欠席せざるおえない状況もありました。晴れやかな気持ちでは開催を迎えられませんでした。事務局長・実行委員各位は、地元広島へのお見舞いの気持ちを胸に総会を実施しました。

まず最初、恒例の講演会では、例年とは異なる試みとして卒業生の父上に

講演会をお願いしました。矢野寿一さん(38回)の父上、株式会社大創産業会長 矢野博文様より「生きる」というテーマでお話いただきました。また、会長自身が主人公である「百円の男」40冊をご提供いただきました。講演会ではなんと、つけ髭をつけて登場され、ひょうきんな二面を披露されていました。テレビ東京で放映された特集番組のビデオを10分程度上映した後、百均の王者ダイソーを二代で築き上げた矢野様の波乱万丈な人生とそこから得られた気

づき(名言)をお話いただきました。講演開始直後から、会場全体がお話に引き込まれ、生き方のヒントを頂けたように感じました。

19時からは総会がスタート。今年は、深山同窓会会長、田原校長、林近畿支部代表幹事を来賓にお迎えし、280名を超える卒業生の参加のもと盛大な同窓会となりました。今回の総会では、世代を超えて繋がる施策として、テールレイアウトを大幅に見直し卒業回下一桁ごとにテーブルを割り当てまし

ご挨拶

第84号同窓会誌の発行にあたって



修道学園(中・高)同窓会 会長 深山 英樹(高12回)

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度の同窓会会報誌第84号の発行にあたりましては、各方面より多大のご協力を賜り無事発行の運びとなりました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。この会報誌が同窓会と同窓生の、また、同窓生同士の情報交換・情報発信の一助となれば幸いです。

さて、来年は浅野氏が広島城に入城して400年の節目を迎えます。それを記念して浅野藩の藩校を起源とする我が修道と、浅野家の家紋を校章にあしらひ、浅野家の菩提寺を校名とする国泰寺とが、芸州頂上決戦「修国戦」と銘打ち対抗戦を始めることとなりました。今年はそのプレ大会として、両校で11競技が行われ結果は引き分けに終わりましたが、広島の新たな伝統の第一歩が刻まれたことを同窓生として大いに誇りに思います。

今後も、修道学園(中・高)同窓会は母校の発展に寄与すべく、さらに活動を充実して参りたいと決意を新たにいたしております。会員の皆様には、変わらぬご支援を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

支部活動報告

2017年度同窓会 近畿支部の『集い』

開催報告

近畿支部事務局 谷村 典俊(高30回)
2017年12月3日(日曜日)、大阪
新阪急ホテル(大阪市北区芝田)におい
て「2017年度近畿支部の『集い』」
を開催いたしました。

広島から田原校長、貫名本部同窓会
副会長 関東から野崎関東支部幹事
長をお迎えし、来賓3名・会員115
名 計118名の参加者でした。

総会に先立って、午前11時より、畠山
祐二さん(17回)(環境コンサルタント)の
講演「国際環境協力事業に従事して」
でスタートしました。

講演は、会場正面と中段の二か所に
プロジェクターとスクリーンを設置しど
の座席からもバッチリと資料が見られ



校歌斉唱 左より 畠山祐二(17回)、今村昭夫(旧中36回)、
田原校長、齋本隆司(17回)、角武雄(8回)
後列 世良朋孝(35回)

るようにし、JICA(独立行政法人
国際協力機構)での、発展途上国にお
ける開発援助時の環境対応について臨
場感あふれる現地の写真を多く見せて
いただき大変興味深いわかりやすいも
のでした。

その後、総会に移り、近畿支部会長
の齋本さん(17回)の開会挨拶の後、前
年度の会計報告が、代表幹事・会計担
当の林さん(19回)より、また会計監査
報告が監査担当の吉田さん(15回)から
それぞれ付議され、各議案および報告
事項とも全会致にて承認され、総会は
滞りなく終了しました。

引き続き、田原校長・貫名同窓会
副会長(14回)・野崎幹事長(19回)とこ
来賓各位に御挨拶いただきました。

田原校長からは、鈴峯女子中学校、
女子高等学校と修道学園の関係、新し
い大学入試での選考方法の変化など今
後の修道の抱える課題をお話しただ
きました。貫名副会長からは、現役生
に対しての同窓会の役割は、体験や経
験を伝承していくことで、近畿支部と
同様に1000人以上のOBが存在して
いる修道医師会の取組を紹介いただ
きました。

懇親会は、吉井顧問(16回)に乾杯の
音頭をいただき、学年順に14テーブルに
わかれて、和気あいあいのにぎやかな宴
会となりました。

また、毎度おなじみになりました副
代表幹事の近藤達夫さん(29回)のソ
ロ。(近藤さんは当日御本人の大阪いず
みホールでの公演本番を途中抜け出し

いただき、初参加で一番くじを引かれ
た、讃岐さん(高32回)の乾杯の発声に
より、懇親会へと入りました。

総会の中盤では、出席者の近況報告
や学生時代の懐かしい話の紹介など
で、楽しい時間を過ごすことが出来ま
した。今年は、山縣選手と同学年の津
村さんも出席され、ゴールデンエイジと
して、誇らしそうに話をされました。

欠席者のメッセージに土曜日は仕事
という欠席理由が多くみられましたの
で、次年度は、曜日と開催時間を見直
し、さらに多くの卒業生が集える会と
したいと思います。

追伸：報告をまとめているさなかに、
7月の豪雨災害が発生しました。広島
をはじめとし、中四国で多くの方が、尊
い命をなくされています。また、被災地
の復興には大変な努力が必要と思いま
す。亡くなられた皆様のご冥福をお祈
りするとともに、被災地の日も早い
復興をお祈り申し上げます。

平成30年度 東部修道会総会

山本 正憲(高14回)

東部修道会は福山市を中心に西は
三原市、東は岡山市に至る備後、備中
の修道関係者で構成しています。

本年度はこの東部修道会発足30周
年になります。今年は記憶に残る総会
にすべく前原敬悟会長(高校20回)を
始め役員の皆さんが昨年からのいろ
検討してきました。



近畿支部交流の試みで、お医者様に登壇いただきご紹介しました。

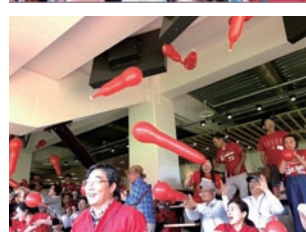
ての出演でした。また、スクールバンド
班出身で、プロトランペッターとして活
躍中の寺田啓彦さん(53回)の素晴らしい
トランペット演奏、と宴席に花を添え
ていただきました。

今年からは、近畿での会員相互の生
活情報交換の場にもしたいとの思いで、
お医者さん(20数名)弁護士さん3名
に、壇上に上がっていただき 各人の専
門分野、活動地域等の情報を宣伝も交
えて発表いただきました。早速、先生を
囲んでの医療相談も始まっていたよう
です。

終盤に、常任幹事の世良さん(高校
35回)のリードのもと、全員が肩を組み
ながらの校歌斉唱となりました。卒業
した年代は違えども、修道近畿支部の
同窓会旗のもと、「安芸の小富士に」
と歌い始めると、自然とあの頃に
感覚を味わえるのは、同窓会ならではの
と、いつも感じます。

その結果、修道学園で総会を開催
し、記念イベントをマッダスタジアムで
パーティをしながらのカップ応援という
案になりました。しかし、近年マッダ
スタジアムのチケットの確保は至難の業で
す。増してや150席のパーティールーム
の確保はさらに難しいことです。役員
の皆さんはいろいろ手を尽くしてこれを
見事にクリアしました。5月26日(土)、
岡山発と福山発のバスは最年長の麓忠
義さん(高校1回)ら卒業生と家族、在
校生家族などを乗せて一路修道学園を
目指しました。

学園では林理事長、深山同窓会会
長、田原校長、竹川事務局長の出迎え
を受けました。立派になった建物群、オ
リンピックと同じ材質のトラック、深さ
可変のプール、特殊な床の体育館など
修道自慢の施設を案内して頂きました。
最後は明るく快適な食堂でパンや
うどんの値段を思い出しながら総会を
行いました。その後、林理事長など来賓
の方々も一緒に球場に向いました。マッダ
スタジアムは初めての方もあり、パー
ティールームはほぼ全員が初めての経験
で皆さん期待に胸を膨らませて球場に
入りました。ピュッフェスタイルの料理



最後に、結城副会長(17回)による閉
会挨拶で幕を閉じ、次回2018年12
月2日(日)の再会を誓い合いました。
ご協力いただきました関係各位、そ
して参加者の皆様に、改めて御礼を申
上げます。

平成29年度 第25回九修会総会報告

九修会事務局 石本 俊亮(高27回)

平成29年度の九修会総会は、平成30
年2月17日の土曜日16時30分から、博
多駅横の、ホテルセントラーザ4階重
間で開催しました。昨年は開式前の記
念撮影で手間取りましたが、今年は、ス
ムーズに進めることが出来ました。た
だ、残念なことにJR九州の事故の影
響で電車が遅れが発生し、諫早の吉川
さん(高6回)、鳥栖の近藤さん(高26
回)が間に合いませんでした。

今回は、これまでと少し会の進行を
変更し、総会の冒頭で逝去された方
の紹介と、やむなく欠席された方々か
らの温かいメッセージを紹介させてい
たきました。また、9月に開催された
同窓大会について、黒田副会長より報
告いただき、九修会の懇親会へと移ら
せていただきました。

九修会懇親会ですが、スペシャル企画
として、63回卒の山縣亮太選手からの
ビデオレターを紹介させていただきました
しました。今シーズンや東京オリンピックに
かける熱い思いが伝わってきました。先
ごろの大会で、アジア大会(8月開催)へ

は品数も多く、飲み放題のアルコールで
気分がよくなったところからゲームが始ま
りました。試合は前半、相手チーム中日
のベースのため、今時珍しい昭和時代の
市民球場張りの野次を飛ばす人もい
ましたが、今のスタイルの声援で応援す
る人、ゲームそっちのけでコックさんに料
理を頼む人、飲みながら談笑する人、
眠ってしまう人、ルームを出てコンコース
を廻っているいろいろな施設を見学する人
など思い思いの時間を過ごしました。終
盤にはカップが追い上げ、野球観戦に
力が入り盛り上がりました。僅かに及
ばず負け試合でしたが、多彩な素晴らし
い一日を振り返りながら満足して帰
路につきました。

最後にこの素晴らしい総会を企画
し、その後のもろもろの作業を中心と
なって進めて
頂いた事務局
の小林泰偉さ
ん(高校26回)
や役員の皆さ
んに最大限の
感謝の意を表
して筆をおき
ます。



第24回 江能修友会総会

胡子 雅信(高41回)

平成7年7月7日に発足した江田島市(江田島・能美島)出身および関係者を会員とする江能修友会も24年目に入ります。昨年に続いて江田島市の西海岸にある、夕陽がとても美しく、裏・宮島を眺めることのできるサンピーチおきみ(江田島市沖美町)にて総会および懇親会が開催されました。

初めて参加いただいた方、久しぶりに総会にあわせて横浜から帰省していた



平成30年6月10日(日) 於 サンピーチおきみ

だった方もいらっしゃいました。高校1回から54回まで幅広い年代層が集う支部も珍しいのではないのでしょうか。江田島市は広島湾の真ん中に位置する、『ザリガニ』の形をした島です。広島方面からは宇品港から高田港まで高速船で25分、送迎バスにより会場までは約15分のドライブです。

このたびは修道学園から2年ぶりに田原俊典校長がご出席くださいました。総会の審議を無事に終え、修道中高の近況報告をしていただきました。広島島の直ぐ目の前にある自然豊かな江田島・能美島のことをとても気に入っているとの温かいコメントもあり、会員一同、改めて『ふるさと』を誇りに思わせていただきました。

会場から海を眺めながら、コイワシの天ぷらなど江田島ならではの食材と美味しいお酒を酌み交わしながら楽しいひと時を過ごしました。最後は恒例の肩組みながらの校歌を大合唱して来年会う日を約束して散会しました。

修道医会 平成30年度(第62回) 総会・懇親会 報告

修道医会事務局 大段 秀樹(高33回)

この度の西日本豪雨災害で亡くなられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また一日も早い復興をお祈りいたします。

修道医会では修道学園を卒業し、主と

制療法の開発」と題したご講演を拝聴し、特別講演(Ⅱ)では、広島大学大学院医歯薬保健学研究科地域医療システム学・教授 松本正俊先生(高校42回卒)の「地域医療を科学する」と題したご講演を拝聴しました。

午後7時からは会場を移して懇親会を開きました。黙祷、佐藤修治会長(高校26回卒)の開会、ご挨拶、ご来賓の林正夫修道学園理事長、伊藤學人修道学園同窓会副会長よりご挨拶、田原俊典校長から学園の現状を伺いました。さらに前述の2つの賞の表彰と受賞者の謝辞が続き、土肥雪彦先生(高校6回卒)の献杯で懇談に移りました。ご就任ご挨拶では、平成30年4月1日ご就任の大段秀樹先生(高校33回卒)広島大学大学院医歯薬保健学研究科長就任のご紹介、ご挨拶がありました。学生部会からは8名が参加しご挨拶をして頂きました。

今回の参加者は97名でありましたが、最後に肩を組み校歌を斉唱し、修道健児の心意気を示すとともに、今後の各分野での個々の活躍と修道同窓生としての連携を確認した次第です。

第54回 広島修道歯科医会総会

毛利 雅哉(高31回)

平成29年11月18日(土)午後4時より「ANAKラウンプラザホテル広島」において、第54回修道歯科医会総会が開催された。



総会は久保康治専務理事(高37回)の司会進行で行われ、まず、大原省三会長(高19回)より出席した会員に向けての挨拶があった。引き続き、各部からの報告等が行われた。また、今年度は役員改選の年にあたるため協議事項として提出され、次期会長に椿田直也副会長(高24回)が就任することが決まりました。

総会に続き午後4時30分より講演会が行われた。今年度は講師に広島大

して広島県内で医師として活躍している方々の集まりであり、会員数は1,000名以上です。昭和31年7月1日に発足して以降、毎年1回の総会、ゴルフ大会、家族会(野球観戦)等を催しています。平成20年から学生部会をつくり、広島大学医学部の在学生のみならず、他大学医学部の在学生にもよびかけて部会としての活動を行っています。

今年度の総会は、平成30年7月21日(土)、ANAKラウンプラザホテル広島を会場に開催しました。午後4時30分より評議員会、午後5時からの総会において、平成29年度の事業報告や決算報告に加えて、平成30年度の事業計画や予算案が担当幹事より提示され、いずれも原案通り承認されました。第20回学術奨励賞は2名受賞し、濱岡道則先生(高校53回卒)(広島大学病院消化器・移植外科)が、高度進行肝臓病に対する外科的治療の発展に関する論文業績で、吉田秀平先生(高校55回卒)(広島大学地域医療システム学)が、生物心理社会的観点から患者の複雑性を評価する尺度の確立に関する論文業績で受賞されました。第18回社会功労賞は神辺眞之先生(高校13回卒)が医学教育及び地域医療の向上のご功績で受賞されました。

次いで午後5時半からの特別講演(Ⅰ)では、広島大学大学院医歯薬保健学研究科幹細胞応用医科学共同研究講座・教授 中島歩先生(高校44回卒)の「間葉系幹細胞を用いた腎線維化抑

学大学院医歯薬保健学研究科口腔生理工学分野の二川浩樹教授(高32回)にお越しいただき、「お口の健康への新しいアプローチ」という演題で講演をしていただいた。二川先生は産学共同で様々な商品を開発されることに携わっておられ、私たちの身近にあるヨーグルト製品や除菌剤イータックなどが先生の開発された代表的な商品である。先生が見つけられたL8020乳酸菌を使ったさまざまな製品により、高齢社会のお口の健康につなげていくというお話を会員一同興味深く拝聴した。

記念写真の撮影を挟んで、懇親会が同所午後6時より行われた。例年通り、田原校長にご来賓としてお越しいただき、母校の現況についてお話をいただいた。同じ修道の同窓として和気藹々とした時間を過ごし、最後に同輪にならうて恒例の校歌斉唱で閉会となりました。

広島市修道会 活動報告

広島市修道会 木村 隆之(高59回)

当会の活動報告に先立ちまして、平成30年7月豪雨による災害でお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りいたしますとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。また、被災された皆様にご心からお見舞い申し上げます。

豪雨災害から1か月余りが経過し、通行規制の解除や断水の解消、インフラの復旧が進み、被災地では元の生活

を取り戻しつつあります。その一方で、未だ災害の傷跡も癒えず、将来への希望を見いだせない方も多くいらっしゃると思います。

広島市では、国や県、関係機関等の協力を得ながら、被災地の復旧、そして被災された住民の皆様が、一日でも早く被災前の日常生活に戻ることができるよう、全力で取り組んでいます。

こうした中、修道学園関係者の皆様から多大な御支援等をいただいておりますことに、改めてお礼を申し上げます。

さて、広島市修道会では、広島市役所の職員のうち、修道中学・高等学校、修道大学の卒業生で構成されています。また、これらの卒業生である市議会議員の先生方にも顧問として入会していただいています。

主な活動として、毎年総会及び懇親会を行っており、これまで63回を数える市役所の中でも歴史の長い同窓会として続いているところです。

例年、この紙面をお借りして総会等の活動報告を行っておりますが、今年度は、豪雨災害があったため、7月中旬に開催予定の総会等を延期することになりました。

市役所という大所帯の中で、同窓の先輩後輩が一堂に会して交流できることは、大変貴重な機会となることから、時機を捉えて総会等を開催したいと考えておりますが、まずは、被災された皆様の生活支援、生活再建等に全力を尽くす所存です。



第62回修道医会総会懇親会

人物往来

2017年度退任横洲秀輝元教諭(高27回)

現役の修道生が
インタビューをしましたので、
現役生とのやりとりを
見ていただきたいと思います。

(生) 当時の勉強方法を教えてください。

(横) 大学受験が近づくにつれて勉強する時間も増えたよ。平日は高1に2時間、高2に3時間、高3に6時間やってたよ。もちろん休日はもっとやってたよ。高3では学校の授業6コマ分と同じくらいの自習時間をとるべきよ。このくらいしなきゃなかなか現役で難関大学は受からんよ。昔の修道は1コマ50分だったんだけど、15:05に学校が終わっていたから昔と比べると1時間早く終わるよね。部活などを考えるとこの1時間は大きいよ。だから時間の割り振りが昔と今ではちょっと違う工夫が必要だね。工夫してほしいよ。

(生) 寝る時間は何時でしたか？

(横) 帰って勉強して飯食って1時間ほど休憩。その後勉強して0:30に寝て、6:30に起きるよ。睡眠時間はいつも6時間。嫌というほど勉強してないから疲れん。受験勉強の最後の一年はあっという間だったね。さすがにこの生活は二年はできないわ。

(生) 修道生に言いたいことはなんですか？

(横) まず、高3のフロアでは笑顔や笑い声があってはならないな。そして、楽しく勉強しているうちはあまり身につけていないぞ。これは勉強を“消費”していると言ったほうが良い。楽しい授業は用心して聞いた方が良く。面白い授業は何も覚えてないことが多い。何こいつ一人でべらべらしゃべりやがってっていう授業の方が身につく。最後の一年は顔がゆがむくらいやってほしいよね。

(生) 東大首席ですか？

(横) まず東大首席ではないね。教育で順序を付けるのがタブーの時代だったのよ。修道もその時期成績掲示も廃止始めてね。生徒が先生に歯向かう時代だった。大学紛争也多発したよ。修道でも機動隊が来た時もあった。僕はそれを実際見たこともあった。べつに成績の順序付けても良かったけどね。大学1・2年の成績でその後何を学べるかが決まっていたから、やりたい勉強をすぐさせてくれるわけではないのね。でも文学部の中で行動学が一番難しかったから僕は首席並みの学力だったかも。

(生) どう勉強すればいいですか？

(横) 修道生にとって次のハードルは大学受験。そのためにぬかりなく準備すればよい。自分のハードルを自覚している人はしんどいと思う。でもそれを何回も乗り越えたらしんどくなくなる。アスリート達は何回もきつい経験をしているから僕らがきつそうだなあと思っていることも当たり前になっている。勉強も同じことよ。何回かしてたらへっちゃらになる。

(生) 社会科の勉強は何をすればいいですか？興味が無い生徒もいるようで・・・

(横) まず小中高の社会科は“やらないといけない勉強”。そして、大学からは“興味のある勉強”。小中高時代に興味がある勉強のみやるのはよくない。そこで欲望に負けて他の教科をおろそかにしてしまうとあまり総合力がつかないね。欲望はあまり大事にしちゃいけない。眠たくても教科書を読むのが一番方法として良いと思う。教科書は良く書けてる。教科書=良質な文章だよ。数学を解きまくると同じように社会は読みまくるのが良い。

(生) 取材にご協力ありがとうございました。

答：松田オーナーは去年監督と一緒にオープンカーに乗られたので、この度は選手と一緒に高いところから熱烈なファンの姿を見たいと思われたこともあったと思います。

質問④パレードの到着していたユニフォームはあらかじめ深山君が自分で用意していたものでしたか？それとも球団が用意してくれていたものだったのですか？

答：私が用意したのですが、結局、球団が製作費はもってくれました。

質問⑤ユニフォームの背番号のが『1025』となっていましたか？

答：あれは私の誕生日なのです。

質問⑥「パレードの総費用は1億円は軽かるが、ファンが喜んでくれるのなら安いもんよ」とオーナーが言っていたと思いますが、今のカーブは太腹なものですね。

答：そのくらいはなかったと思います。私にはよく判りません。

質問⑦最後になりますが、深山君につてこのような晴れがましい舞台は2度と訪れないと思いますが、パレードで先頭のオープンカーに乗られた感想はいかがでしたか？

答：30万3千人のカーブファンの群衆には圧倒されました。非常に晴れがましいことだったと思いますし、大変良い思い出になりました。

私：どうもありがとうございました。このような出来事は修道学園の歴史にも2度とないことだと思いますので、このインタビューの記録を修道の同窓会誌に掲載させてもらってもいいでしょうか？

答：私は構いません。

私：本日はありがとうございました。後は皆さんと心行くまでバーティを愉しんでください。

去年に続いて、2017年度も広島カーブが優勝してしまった。思い返せば、戦後1度もかすりもしなかった優勝という言葉に漸く辿り着いたのが1975年の初優勝。広島県民は泣いた。わめいた。笑った。

それからカーブの全盛時代がしばらく続いた。そして山本浩二監督の元で優勝したのが1991年。それから25年間もズームレンズを装着し、パレード開始30分前に脚立を携えて100メートル道路に駆けつけた。

晴天である。陽は南より射している。平和大通りの終点である鶴見橋付近に陣取り、絶好の撮影場所を探して人ごみをかき分けて歩いた。

100メートル道路を西に暫く歩いて、絶好の撮影場所を見つけた。普段余り利用されていないバス停があり、そのバス停は鉄骨に透明アクリルで覆われたモダンな建築物であった。私は柱に依りかかるように脚立を設置して、今や遅しとパレードが目の前を通り過ぎるのを待た。

手、続いて鈴木、野間、数田、中村祐太選手が並んで手を振っていた。その後オープンバスは6号車まで延々と続いた。人間はひまわりのように自然とお日様の出ている方に向く習性がある。私の採ったポジションは誠にビンゴであった。

思い返すに、2016年の優勝時には先頭のオープンカーで誇らしげに松田元オーナーが緒方監督と共に手を振っていた。しかし、「なぜ2017年度の優勝パレードでは深山君が監督の隣りに乗っていたのか？」という疑問がいつまでも私の頭の中に渦巻いていて消えることが無かった。

2017年度広島カーブ優勝パレード

増本 光雄(高12回)

優勝から見放されていた。それがどうした風の吹き回しか、2016年緒方監督のもとで広島カーブがペナントを制覇した。2016年11月5日(土)に平和大通りでパレードが行われ、31万3千人のファンが詰めかけた。

またまたどうした風の吹き回しか、2017年度も2年続けてカーブが優勝してしまった。そして2017年11月25日(土)に平和大通りをパレードすることになった。

私はニコンのデジタル一眼に80-400mmの望遠レンズを装着し、パレード開始30分前に脚立を携えて100メートル道路に駆けつけた。

晴天である。陽は南より射している。平和大通りの終点である鶴見橋付近に陣取り、絶好の撮影場所を探して人ごみをかき分けて歩いた。

100メートル道路を西に暫く歩いて、絶好の撮影場所を見つけた。普段余り利用されていないバス停があり、そのバス停は鉄骨に透明アクリルで覆われたモダンな建築物であった。私は柱に依りかかるように脚立を設置して、今や遅しとパレードが目の前を通り過ぎるのを待た。

先頭のオープンカーではスライリーが張り裂けんばかりの愛嬌を振りまいている。さて2番目のオープンカーが大問題であった。なんと緒方監督と並んで深山英樹修道学園(中・高)同窓会会長が満面の笑みをたたえて沿道のカーブファンに手を振っているではないか！

これは修道にとつて歴史的な出来事である。カーブの優勝そのものが広島市民にとつて奇跡であったのに、監督と並んで修道学園同窓会会長がオープンカーに乗っているのである。このコラボは2度と実現しない奇跡といえた。

その瞬間、私の目にはそのシーンがスローモーションに変じた。「深山！こっちを向け！そして微笑め！そして手を触れ！」と心の中で叫びながら連続してシャッターを切った。その時深山君は私の中では完全唯一の被写体となり、緒方監督は添え物であった。その点は多くのカーブファンと意を異にするかも知れないが、これは致し方ないことである。

続くオープンバスには先頭に松田オーナーが満足げに手を振って観衆に応えている姿が目に入ってきた。その横には丸選

特集

元生徒会副会長 河野富士雄(高4回)

我々四期生は、昭和21年4月、終戦後初めてかつ旧制中学最後の入学生として修道の生徒になりました。

中三の時の学制改革で新制中学校の卒業証書をいただき、昭和27年3月高校卒業。当時の世相を反映して出入りが多く、短期間でもこの学年に在籍した方全員を会員に登録したため会員総数291名、うち幹事が承知している物故者は110名に達します。ただし卒業以来音信不通の方が多いので、会員の半数はすでに鬼籍にあるのではないのでしょうか。「あちら」でも盛大な四期会を開いたことでしょう。

開宴に先立ち多数の物故者に黙祷を捧げ、乾杯の発声は千葉県浦安市在住で卒業以来初参加の東省三君、宴の途中で記念撮影、全員一言スピーチ、締めは元音楽班長・長坂公二君の指揮で校歌斉唱、元生徒会長・中丸哲夫君の音頭で修道万歳。「中締め大会」と銘打つたのは、来年以降も「二次会」「三次会」…を続けるつもりだからです。

修道高校四期会 中締め大会 総会・懇親会実施報告

修道二一會 的場先生を偲ぶ会

幹事 池田 達也(高11回)
世話役 久保田喜之(高11回)

私たちは昭和28年(1953年)修道中学校に入学し、的場先生担任の生徒となりました。

当時の校舎は平屋建てで建物の両側を大きな丸太で支えられた今では想像の出来ない著しく老朽化した校舎でした。中学時代の3年間はどのクラスも同じ先生が担任されましたが、高校からは毎年組替えが行われ、その都度担任が変わりました。しかし6年間の場先生にずっとお世話になったユニークな同級生が「的場先生を偲ぶ会」の発起人となつて平成30年6月10日に奥様をお招きして挙行したところ16人が集まりました。

数寄せられました。一方参加者の思い出には、サッカーで大けがをした時、先生から励ましの詩を贈られ絶望の淵から無事立ち直る事が出来た事。先生から日本史を学んだ際「歴史は楽しいもの。興味を抱いて取り組めば歴史の楽しさが更に味わえるようになる」と教えられて、無事大学に入ることが出来た喜び等が発表されました。

中学1年生の臨海学校の就寝前に私が大好きな漢詩を朗詠するから聞いて欲しいと言われ、王維(701-761)の「元二を送る」(惜別の詩)漢詩を朗詠されました。先生の印象的な詩吟から60年後、予想もしなかった漢詩に出てくる地の果て陽関を訪ね、将に奇跡的な旅行でした。陽関には朗詠された詩文の石碑が建設されており、多くの観光客が見入っております。

先生が他界されて今年5月で9年が経ちますが是非先生と一緒に訪れたい気持ちで一杯でした。またこの陽関・敦煌は平山郁夫画伯のシルクロードのスケッチポイントでもあると同時に画伯が世界に絵画をもつて広めた地でもあります。先生は旅行が大好きで自ら



的場克己先生退任記念同窓会 平成元年4月1日 於 宮島・岩惣

スケジュールを立てては教え子らと国内・海外旅行を楽しまれたと聞き及んでいます。

上記の漢詩は次の通りです。

渭城の朝雨輕塵を浥(うる)おす 客舎(旅館) 清々柳色新たり 君に勧む

この原稿は「修道」というタイトルの同窓会会報誌に寄稿するものである。どうやら会報誌発行責任者も心を入れ替えて「第83号」より印刷文字を二回り大きくして発行する気になったようである。恐らく口うるさいロウトル(われわれ12回生も本年度77歳に達するので当然その資格は十分に有している)の大先輩から「どうも字が小さくて読みづらい」という苦情が当局に届けられたに違いないのである。封建時代の名残を残す我校は先輩の一言は金塊よりも重い。歴史の長い栄えある修道生は優しく、且つ、厳しい諸先輩

平成30年度 修道12回同期会のご報告

修道12回同期会実行委員会

更に盡せ二杯の酒 西の方陽関を出れば故人無からん(長安の渭城で酒宴を張った時、遙か陽関を出て行くと、もう二度と生きて帰れないぞ。もともとと飲んでくれと言う惜別の詩)

最後になりましたが、出席下さった的場夫人も我々同級生と同時に同化されて大変喜ばれ、さすが修道男児だと感心しておられました。ドサクサに交えて先生とご夫人の馴れ初めを聞き出したりした賑やかな偲ぶ会でした。

いつまでもご夫人のご健康とご多幸をみんなで祈念しながら散会しました。

第46回 四期会総会	
木下 三郎	長坂 公一
大日 正毅	中丸 哲夫
竹中 陽一	渡辺 貢祥
三吉 信	大下 明敏
和田 世弘	大島 襄二
黒川 浩	行友 健一郎
河野 富士雄	
中村 富洋	
上野 広三	
土井 寛	
東 敏彦	

われわれ修道十日会は昭和37年以来毎年同期会を開催していますが、本年は卒業60年に当たり「記念同期会」と銘を打ち6月7日12時「シェラトン・ランドホテル広島」で開催いたしました。参加62名うち県外9名(関東2中部1関西3岡山1四国2)。加藤君の記念撮影後、名司会役の坂坂君の進行から始まり、高木君の開会挨拶では秋光純君(青学大名誉教授現岡大広大特任教授)がマスコミ報道でノーベル賞候補に挙がっているエピソードの披露があり、ついで10年前「卒業50年記念同期会」に引き続いてご臨席賜った田原校長先生のお話を頂き、母校が名実ともに名門校として順調に発展している様子が窺われ全員感激いたしました。都山流大師範の小滝君の黒田節とひばりの人生歌「川の流れるように」の祝賀演奏がありました。遠来の野田君の乾杯発声の後、歓談に入り、二時間半はあつという間に経ち、恒例の万歳三唱と校歌斉唱あり、東君から来年4月に傘寿同期会を「半べえ」で開催する旨発表がありました。なお、当日全員が写っている卒業写真(饒津神社で撮影)、卒業式次第と卒業名簿の三点のアーカイブを配布



修道高校卒業60周年記念同期会 平成30年6月7日 於 シェラトン・ランドホテル広島

卒業60周年記念同期会 修道十日会

池本章(高10回)

の薫陶の元に撫育されてきたのであった。また、母校に対する思い入れというものは老齢になるにしたがって強靱になって来るのである。それが証拠に同窓大会の出席者も自然減による総体数が減ってくれば別であるが、老齢になるほど出席率が高くなっている。老人のたわ言はこの位にして愈々本題に入ろう。

今回の同期会も去年に引き続いて1月12日(金)にPM6:30より中区立町の『酔心本店』にて開催した。

毎年の参加人員はここ数年60名から65名までに落ち着いてきている。さて、本年度の出席者の総数は結局67名に達したのであるから、近年にない快挙であったと実行委員会は胸を撫で下ろしている次第である。

ただし、同期会当日のお天気は我々いたくない老人にとってアゲインストの風が吹きまくった。当日この冬一番の寒波が襲ってきたのであった。そのせいで急遽出席できなくなった生徒が3名も数える羽目になった。

われわれ同期生も寄る年波には抗しがたく、寒さに耐えがたい体質に変容してきている。家族からも「おじいさん、いい加減にして下さいよ。こんな寒い日にわざわざ出かけて行って、後で寝込まれたら私達が困るんですからね」とねちねち嫌味をのたまわれて、致し方なく炬燵で一人ため息をつきながら

日がな一日やるかたなく過ごす羽目になることだつてあるのである。雪による交通機関の運休も心配し



りはいささかきつい。つまり、足が痛い、正坐が困難である、腰が痛いという連中が徐々に増えてきたことである。②参加者が年を取るにしたがって相対的に太ってきたことである。それだけ詰め込みが困難になってきた。しかし、その点は良くしたので、近年あの世に旅立つ同級生や病欠の同級生が増えてきたりして、幾分余裕を持って坐れるようになり自然に問題は解決されて来ている。

2017年度は11月16日(木)に開催したが、参加者は21名であった。

札幌から「飛行機のチケットが取れたから行く」と電話が入った。大阪市から1名、枚方市から1名、大津市から1名、鳥取市から1名と遠隔地からの遠来の友が駆けつけてくれた。今回は『体調悪し』と常連が3名欠席。年令を押し量ると致し方なし。2018年に入って1名が身まかった。身につまされる。

それでも、この嬉しい会をまだまだ終了する訳にはいかない。4名くらいに減った時点で居酒屋のテーブルを囲んで、回数を増やして、しめやかにやりたものである。やけにしみりした話になつてしまったが、近年嬉しいことも沢山あったことも報告しておきたい。

この会の派生的な行事として、2009年より『大人の修学旅行』を敢行したことであった。最高催行人数

は7名。1台のワゴン車をチャーターして、1年に1回の割で近県をツーリングして回る。河豚を食べに仙崎に2回。試に津和野に日帰り旅行。味を占めて松江に1泊ツアー。続いて鳥取1泊ツアー。自信を得て、中学時代の修学旅行コース北九州一周を敢行。山口市で浮世絵鑑賞後、防府で鰻のコース料理を賞味。続いて、土佐まで四国を縦断。最後に高校の修学旅行のコースを辿つて、桜と紅葉の季節に吉野、京都、大阪を巡る。ここで遂にワゴン車も運転者も『ロートル化』し10回で打ち止め。この冒険の旅も敢え無くギブアップ。

それにしても、老骨に鞭打つてのこの大人の修学旅行は嬉しい思い出を沢山残した。毎日毎晩行く先々の同級生を呼び出して旧交を温め、贅沢な気の置けない小宴を繰り広げ、昔話に花を咲かせた。

気分は半世紀以上も前の中学生時代にタイムスリップして、あの世に持って行く多くの思い出を心に刻み込んだ。これはわれわれ老人の『ステップ・バイ・ミー』である。

代表世話人 伊藤 學人(高20回)

卒業50年を記念して

平成30年3月17日、高校20回卒業の同期会をホテルグランヴィアにて開催し

なくてはならないし、「来年からは季節のいい4月ごろに開催したらどうだろうか?」という意見が持ち上がり、12回卒ということだけはこだわって、開催日の12日だけに変更しないという方向で衆議決した。更に出来得れば他県からの出席者の日帰りが可能なように開催時間も早めるように取り計らうことも考慮された。

は定めない。④早めに来て、途中退席も自由である。⑤ドタキャンしても参加料金は取らない。⑥料理も飲料もたっぷり出せる。⑦自分が飲みたい酒は自由に持ち込みができるし、参加者に振舞うこともできる。⑧1年間の拾得物、捕獲物、あるいは貰い物、あるいは差し入れをこの会に自由に利用できる等の利点がある。

欠点は①年を取つて来ての座布団坐

昭和31年卒
修道中学6組会 同窓会

修道12回同期会実行委員会
増本 光雄(高12回)

この同窓会は毎年広島駅前到店舗を構えている我が家(マスカメラ)で開催している。ざつと数えても初めて開催して32回を軽くオーバーしている。「居酒屋に場所を変えたら」という意見が毎年飛び出す、主催者は頑として開催場所を変えようとしなない。

なぜならば、①広島駅に近く、②25人前後ならば、キッチン付きの手頃な広さの10畳の部屋がある。③制限時間

ました。卒業50周年を記念する大会として、1年以上にわたる準備期間を経て当日を迎えました。ご来賓として田原校長をお迎えし、恩師 小田和磨先生、河野富士雄先生、畠真實先生、吉崎富士雄先生ご臨席のもと挙行了この会に出席した同級生は実に150名。卒業同期生の三分の二に及ぶ大人数になり、同級生のご婦人も入れると総勢165名の出席で盛大に開催できたことを心から感謝しています。

中村幸信実行委員長を中心に20名ばかりが、お世話役として心を込めて



母校ニュース

藝州頂上決戦

修道 2018/06/21 国泰寺

SHU-KOKU-SEN



来たる2019年は浅野長晟が安芸の国、広島城に入城し400年を迎える年となります。それに先駆け、6月21日に広島国泰寺高等学校と協力し、標記の対抗戦、名付けて「芸州頂上決戦・修国戦(しゅうこくせん)」のプレ大会を実施いたしました。ご存知の通り、第5代藩主浅野吉長は、本校のルーツとなる講学所を創始しており、浅野家と本校とは、長きにわたり深い縁がっております。この記念すべき400年来年に控え、歴史を振り返り、愛校心を育む機会として、浅野入城400年を全校挙げて祝いたいと考えました。その記念行事の一環として、本校と同じく浅野家とゆかりのある広島国泰寺高等学校と野球、サッカーなど11の競技で対戦しました。結果は、両校とも譲らず、勝敗は五分でした。この歴史的な戦いの決着は、来年の本大会に持ち越しとなりました。まだプレ大会ですが、お互いの伝統に新たな歴史を刻んでいくことを感じさせる大会となりました。

ところどころに散りばめた大会とすることができたと思っています。当時同じクラスであった者同士を同じテーブルに配席したこともあり、開会と同時に話が弾み、またクラブ活動で同じ志をもつて取り組んだ者同士が立ち話をするなど、2時間があつという間に過ぎた一日でした。

さて、高校20回卒業生は結束が固いとよく言われます。考えてみると、同級生の藤田雄山君を忘れてはいけません。1989年参議院議員選挙に初当選した時には多くの同級生が選挙のお手伝いをしましたし、その後93年には広島県知事選に出馬し、同級生が同じ思いを共有しながら汗をかけた経験は、何物にも代えがたい連帯感を生み出してくれたものと思料します。その後、富永健三君が県議会に、大原邦夫君が市議会に挑戦、中川洋君が大竹市長に、直近では新原芳明君が呉市長に、同級生にとっては迷惑でもあります。自分の夢に向かって努力する人間を、身近な存在として支援できることが同期の結束に繋がっていることに違いありません。

今回のお世話で、実行委員会を構成したメンバーは多少疲れ気味ではありますが、今後とも規模を縮小しながら末永く同期会を続けていければと願っています。

第31回修寿会総会・懇親会報告

幹事 田中 佳樹

修道中学校・修道高等学校学校退職教職員が集い、ある「修寿会」(会長・島眞實、会員84名)の第31回総会・懇親会が平成29年10月14日(土)、12時からメルパルクHIROSHIMAで開催され、25名の参加をいただきました。

開会宣言の後、逝去された鬼塚尚而会員、檜木田龍彦会員、事務職員安竹和彦氏のご冥福をお祈りし1分間の黙祷を行いました。

引き続き、島会長から新会員のご紹介並びに歓迎及び開会の挨拶が行われました。この後、新会員になられた小田玄氏、森川春美氏、門脇仁美氏から入会のご挨拶を頂戴しました。

島会長より「修寿会」は、年に一度の集いであり、元気で再会できた喜びと、それぞれの今を語り合う交流の場にしたという思いから、今年は例年行っている各会員の近況報告は近況報告集をご覧いただくこととし、時間の限り語り合うことにしたい。旨の挨拶が行われ、引き続き河野富士雄氏のご発声による乾杯が出席者全員のご唱和のもと声高らかに行われました。

懇親会では、お隣同士またテーブルを越えての懇親が続き、母校の話、自身の話、妻、夫、子供、孫やひ孫の話、趣味・娯楽の話、生涯学習の話、年金の話、健康長寿のための話等々和気藹々

のうちに有意義な時を過ごしていただきました。

恒例行事である円陣を組んでの校歌斉唱のご発声を街道武司氏に、仲井正美氏ご発声による万歳三唱を行

ない、予定した時間を超過してのお開きとなりました。次回(平成30年10月13日(第2土曜日)12時)於メルパルクHIROSHIMA)での再会を約束して散会となりました。



第31回 修寿会総会・懇親会 平成29年(2017)10月14日 メルパルクHIROSHIMA

記念写真(参加者(敬称略))

前列左から 保澤・小田(和)・松尾・島・河野・森川・門脇
後列左から 寺山・有田・木元・玉置・街道・三輪・竹永・小泉・藤澤・仲井・内・吉崎・吉岐・木村・木之上・田中
上段左から 小田(玄)・近川